令和２年度

第３回さいたま市社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会（WEB 会議）

議事要旨

日　　時：令和３年３月１５日（月）１５時３０分～１６時４０分

開催方法：ＷＥＢ会議

出席者：

《委　員》（出席）梶川会長、大麻委員、大熊委員、金子委員、川越委員、篠﨑委員、
関根隆俊委員、田中委員、花俣委員、松尾委員、宮嶋委員

（欠席）小松委員、岸田誠委員、岸田正寿委員、坂田委員、澤岡委員、
関根すみ子委員、若杉委員

《事務局》保健福祉局　青木理事

長寿応援部　西澤部長

高齢福祉課　山﨑参事兼課長、村上係長、関谷係長、小山内主査、関口主任、
茂呂主事

いきいき長寿推進課　髙野参事兼課長、小島課長補佐、高橋係長

介護保険課　横川参事兼課長、百澤課長補佐、榎本係長

報　告：（１）さいたま市第８期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（素案）に対する意見募集結果について

（２）さいたま市第８期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（成案）について

議　事：（１）令和３年度高齢者福祉施策の主要事業について

資　料：

【資料１】さいたま市第８期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（素案）に対する意見募集結果について

【資料２】令和２年度第２回さいたま市社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会（書面会議）での御意見及び対応

【資料３】さいたま市第８期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（成案）について

【資料４】さいたまいきいき長寿応援プラン 2023（さいたま市第８期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画・認知症施策推進計画・成年後見利用促進計画）

【資料５】令和３年度高齢者福祉施策の主要事業

【参考資料】さいたま市社会福祉審議会条例＜抜粋＞

傍聴者：０名

１　開会

（事務局）出席状況の報告、資料の確認、長寿応援部長の挨拶。

２　議事

梶川会長による進行。本会議の公開及び会議資料の公表について合意。
傍聴の許可。

（報告１）さいたま市第８期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（素案）に対する意見募集結果について

事務局より【資料１】に沿って説明

意　見

（宮嶋委員）パブリック・コメントの意見番号１９、２３、２４、３２、３３について、前後のバランスを考えて事業の具体の説明を削除してはどうかという意見が計画に反映されている。どの意見を採用するのかは事務局の判断かとは思うが、仮に市の関係者が市民の立場としてパブリック・コメントをすれば、いくらでも計画の内容を骨抜きにできてしまうのではないか。これらの意見がそうだとは言わないが、市民や本分科会委員から意見聴取をしても、意見が計画に取り入れられなければあまり意味がない。手間やコストをかけて策定される計画であるのだから、高齢者福祉に関する様々な意見を役立て、高齢者福祉の充実に繋げていただきたいと感じる。

→（事務局）すべての具体説明を削除するようなことはなく、一般的に理解されているような内容については、計画という性質から、詳細を割愛させていただく場合がある。貴重なご意見という事で承る。（高齢福祉課長）

→（梶川会長）市民からすると、穿った見方をしてしまうこともある。今後はその辺りの配慮をお願いしたい。

（報告２）さいたま市第８期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（成案）について

事務局より【資料２、資料３、資料４】に沿って説明
質疑・意見等は、なし。

（議事１）令和３年度高齢者福祉施策の主要事業について

事務局より【資料５】に沿って説明

質　疑

・（大麻委員）No. ８高齢者等の移動支援事業について、移動の足がなく外に出られない状況の方が増えており、フレイルにもつながっている。令和３年度予算は令和２年度予算よりも増やすべきではないか。

→（事務局）予算を減額しているのは確かだが、令和２年度にモデル事業として実施したところ、コロナ禍において、社会福祉法人などからの支援を受けるのが難しい状況となっている。令和３年度は本格実施という形で事業は進

めるが、地域でできる範囲で拡大していく形を想定している。（高齢福祉課長）

→（大麻委員）コロナ禍の状況を受けてということはよく分かるが、場合によっては、今後は拡大していくということか。

→（事務局）様子を見ながら、次年度に向けて事業を進めていく。（高齢福祉課長）

意　見

・（花俣委員）No. 1 高齢者入所施設等 PCR 検査費用補助事業について、埼玉県の取組同様、入所系施設に対しての支援ということであるが、在宅サービスに関わる介護職についても、厳しい現場で介護を続けている状況がある。在宅サービスにおいて、いくら従事者が感染を防ごうとしても、変異ウイルスのような感染力の強いものも出ており、各家庭での対策度合いも異なることから、対応が難しい状況。在宅系の方も、ぜひ対象にするようにと県にも要望しているところ。今後、ワクチンの優先接種の話にも関わることかとも思う。施設系だけではなく、全ての介護職を対象にするよう強く求めたい。また、施設系に在宅系の事業が付いていることもあるため、施設側でクラスターが出た場合は、職員も罹患し、在宅系の職員が応援に入るなどの例もみられる。同じ法人で扱いが異なるのは、バランスが取れなくなる。リスクの面でも変わりはないと思う。

→（事務局）仰る通り、全ての介護職が厳しい状況におかれながら、支援を継続していただいていると認識している。現在は、介護度の高い入所系のクラスター発生防止を目的に実施しているということもあるため、今後、感染症の拡大状況を注視しながら、対応できることは対応していきたい。（高齢福祉課長）

・（金子委員）No.11、12 のシルバーポイント（いきいきボランティアポイント、長寿応援ポイント）事業について、コロナ禍で高齢者の孤立が目立ち、若者のように Zoom などでつながることも難しい。ボランティアの活動の中で、Zoom や SNS の使い方を周知するようなことのポイント換算や、健康づくりについての家庭での取組をポイント換算することなどができたらよいのではないか。

→（事務局）コロナ禍でつながりづくりが難しいことは認識している。高齢者で電子機器の利用が苦手な方も多いと思うので、スムーズに使えるような取組をしていけたらと思っている。（高齢福祉課長）

・（川越委員）行政の場合、認知症高齢者など、対象によって事業を分けて考えがちである。高齢者の生活を支えることや、本人がやりたい事や困っている事をベースに事業を展開するのは、いずれの対象者においても共通である。また、様々な事業同士の関連性も意識する必要があり、是非こうした視点を大事にしてほしい。また、高齢者が何に困っているのか、高齢者のニーズは何かを的確に捉えることが大事である。生活支援体制でも、移動支援でも、認知症施策大綱でも、それぞれの人が何に困っているのか、支える側の家族は何に困っているのか、困

っている事をどうやって把握するか、事業の中でもここに重きを置いてほしい。
→（事務局）部内３課ある中で、事業間の連携が重要と感じている。高齢者のニーズについて調査しながら、連携を図るところは図っていく。(高齢福祉課長)
→（事務局）令和３年度から家族介護者（ケアラー）に関して、より注力しようとしている。職員同士の連携も重要と考えている。（いきいき長寿推進課長）
→（川越委員）ケアラー支援については、家族の思い・意向、認知症の人の思い・意向・価値観を大事にしながら支援を展開していくのがベースである。行政側から、本人の思いなどを把握しにいくのは難しいかと思います。それよりも、現場で実際に支援をしている方から直接話を聞くことが大事である。調査だけでは具体的な問題点は把握しにくいため、コーディネーター、ケアラー本人、元ケアラーなど、支援者の声を拾う仕組みが必要。そこをぜひ考えてもらいたい。
→（事務局）意見を重く受け止める。行政的な立ち位置で、型にはまった調査に陥りがちのため、現場の声に耳を傾けることを忘れてはならないと感じる。啓発と共に、実態をつかむということを目標にしているため、手法も含めて、参考にさせていただきたい。（いきいき長寿推進課長）

・（篠崎委員）計画自体について、高齢者が増加しているだけの平時においては機能すると思うが、コロナ禍においては、絵に描いた餅になりかねない。今の社会状況を把握しながら、コロナ禍だから計画未実施ということで終わらないように、具体的な対応を図り、現場に対してこまめにフィードバックしていくべき。計画の持ち腐れにならないよう、進行管理をしっかりと行ってほしい。
→（梶川会長）福祉サービスは、企業のブランド戦略に似ている。ニーズを把握せず、同じようなものがあちらこちらにあったのでは誰からも選ばれない。納得し、支持してもらえるサービスの提供を心掛ける必要がある。

・（大熊委員）川越委員の御意見について、現場を担うものとして聞いていた。具体的に施策を進める時に、連携の話は必ず出てくる。新しい企画を立ち上げて、支援者の意見を聞くというのは実際には難しく、また新たに予算をかけるのかという話にもなる。今あるリソースを使って、吸い上げ、連携するべき。地域ケア会議では、支援者が参加しているため、社会福祉法人、ケアマネージャー、地域包括支援センターが事例を持っており、居宅サービスで実際に家に入り込んでいる人の意見を聞くことができる。窓口として、こういった今あるチャンネルを使ったらどうか。
　ケアラー支援については、国をあげて進められている取組であり、コロナ禍になって特にその重要性を感じた。

・（松尾委員）川越委員や大熊委員からも、現場で関わっている人の意見を聞くべきとあったが、地域包括支援センターが行うオレンジカフェや認知症の方の話し合いの場など、声をかけてもらえれば、ケアマネージャーからも情報提供できる。行政には、アンテナをより高くしてもらいたい。

・（田中委員）No. ２一般介護予防事業、No. ５高齢者生活支援体制整備事業につい

て、コロナ禍ではなかなか把握できないが、高齢者の一人暮らし世帯、高齢者のみの世帯が急増している中で、女性だけの一人暮らし世帯が今後増加するのではないかと思う。男性一人暮らし世帯よりも女性一人暮らし世帯の方が生活していくのが大変なのではないかと考えている。生活支援に関しては、地区社会福祉協議会や自治会、一般でも取組を行っているため、そういったことを評価してもらえるとありがたい。市でもかなりの予算を組んでいるが、残された一人暮らし高齢女性に対する、福祉サービスの提供を重点的にお願いしたい。

→（事務局）コロナ禍で支援にブレーキがかかることを懸念している。社会的つながりの維持が介護予防につながると考えており、本日の WEB 会議のようなツールも含め、様々な方法を考えながら、社会的つながりを絶やさない仕組みを検討していく。地区社会福祉協議会、民生委員、区役所高齢介護課、地域包括支援センターなどから情報を吸い上げて対応していきたい。（いきいき長寿推進課長）

（梶川会長）事務局の方で、来年度の事業に反映していただくようお願いする。

３　閉会

令和３年３月３１日をもって、本分科会の全委員が任期満了となるため、代表して梶川会長から挨拶。

（事務局）長きにわたり委員をお勤めいただき、感謝申し上げる。

以　上